

【テーマ】

「オンデマンド授業のこれまでとこれから

～各大学よもやま話～」

【主催】教育システム分科会

活動報告

日時：2022年10月7日（金）15:00 -17:00

場所：オンライン分科会

出席者：56名

1. 研究内容

「オンデマンド授業のこれまでとこれから ～各大学よもやま話～」をテーマとして教育システム分科会主催のオンラインイベントを開催しました。

今回は、教育システム分科会を企画している運営委員校（共立女子大学、芝浦工業大学、明治大学）がパネリストとなり、パネルディスカッション形式での意見交換を行いました。

「オンデマンド授業に利用していたツールおよび支援体制」、「2021年度におけるオンデマンド授業実施状況」、「実施教員へのお願い事項」、「オンデマンド授業における成績評価および授業評価」をテーマとして意見交換を行いテーマの深掘りや課題などを共有する場となりました。

（内容詳細については「3項概要レポート」をご参照下さい。）

2. スケジュール

15:00 分科会開始

○開催挨拶

○パネルディスカッション形式の意見交換

【テーマ】

・「オンデマンド授業に利用していたツールおよび支援体制」

・「2021年度におけるオンデマンド授業実施状況」

・「実施教員へのお願い事項」

・「オンデマンド授業における成績評価および授業評価」

【パネリスト校】・共立女子大学／芝浦工業大学／明治大学

【モデレーター】・清泉女子大学

（休憩）

○質疑応答

○終わりの挨拶

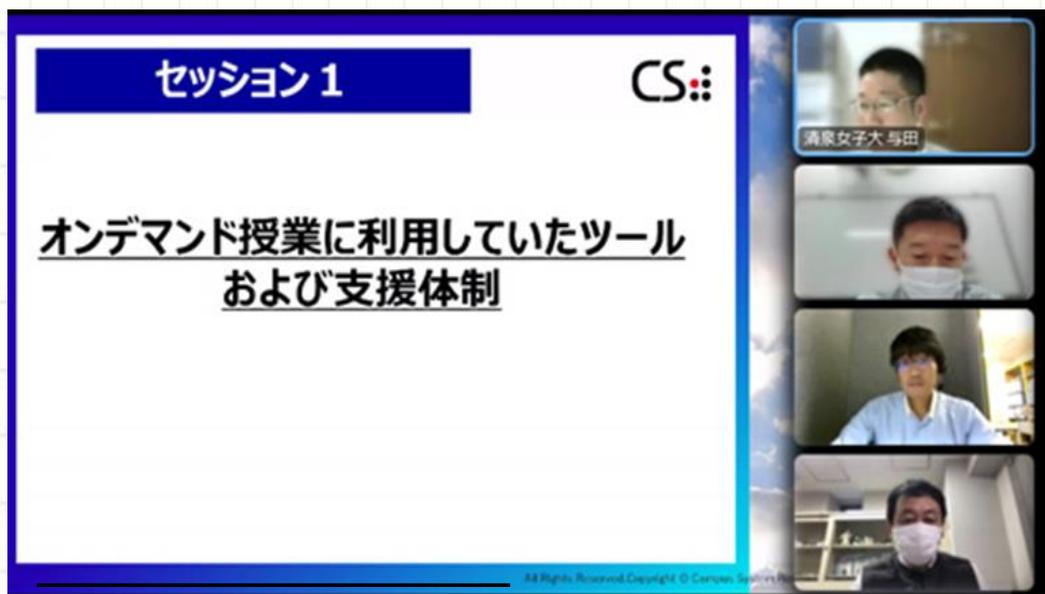
17:00 分科会終了

「オンデマンド授業のこれまでとこれから～各大学よもやま話～」

私立大学キャンパスシステム研究会教育システム分科会が、10月7日にオンラインで開催されました。7月のアンケート調査結果を受け、今回はパネルディスカッション形式で事例紹介、意見交換を行いました。

分科会運営委員の城西大学三ヶ田氏の司会進行により、まず分科会運営委員長清泉女子大学与田氏が開会の挨拶を述べ、その後、与田氏がモデレーターとなりパネルディスカッションに移りました。パネリストは分科会運営委員会の共立女子大学湯浅氏、芝浦工業大学星野氏、明治大学中村氏の3名です。

■セッション1 オンデマンド授業に利用していたツールおよび支援体制



共立女子大学	芝浦工業大学	明治大学
<ul style="list-style-type: none"> • aUNIVERSAL PASSPORT • Google Workspace for Education Plus (有償版) 	<ul style="list-style-type: none"> • ScombZ (in Campusをカスタマイズ) • Zoom • Microsoft Stream • Microsoft Teams 	<ul style="list-style-type: none"> • Oh-o! Meiji (in Campusをカスタマイズ) • Commons-i (Xinics社の動画配信システム) • e-meiji • Zoom

紹介のあった利用している主なLMS、動画配信ツール

清泉女子大学 与田氏（以下、敬称略）：今回は学部、規模等バラエティに富んだ3校がパネリストとなりました。ツール、支援体制について紹介をお願いします。

共立女子大学 湯浅氏：LMSはJAST（日本システム技術）社のUNIVERSAL PASSPORTのほか、Google Workspace for Education Plusも契約しています。天井吊りカメラがほぼすべての教室に整備されており、配信や収録に使っています。板書モード等プリセットがいくつか用意されているため、操作も容易です。教卓PCでGoogle Meetを立ち上げると、授業を録画してコンテンツが作れるよう設定されており、それをGoogle Driveに格納し、LMSを通して配信しています。配慮したのは、学生や教職員が使いやすいこと。Meetは教職員が使い慣れており、Driveとの連携もしやすいことから選びました。支援する職員も慣れているというメリットがあります。

清泉 与田：Google Workspaceを有償版にしている理由は何ですか。

共立 湯浅：ライブ配信やハイフレックス授業にも利用しているため、同時配信できる台数やDriveの容量を考慮して有償版にしています。

芝浦工業大学 星野氏：本学のLMSは、ScombZ（スコーム2）というキャンノンITソリューションズ社のin Campusをカスタマイズしたシステムで、オンデマンド授業だけでなくライブや対面授業でも使っています。本学も、全教室に天吊りカメラが設置されていますが、自由に動かせる可搬カメラもよく使われています。対面授業も必ずZoomで録画するようにしており、体調不良で授業に出られない履修者等が、Microsoft Streamを通してオンデマンドで見えています。一部の授業ではMicrosoft Teamsも使用しています。支援はメールのほか、最初の5分程度授業に立ち会うこともあります。

清泉 与田：Teamsを使う理由は何でしょうか。またグループの管理はどうされていますか。

芝浦 星野：Zoomでは同時配信の上限を超える授業があるためです。また、対面授業後にオンラインでグループワークする際にも、Teamsでプライベートチャンネルを15個くらい作って運用しています。グループやチャンネルの管理は先生方を管理者に設定して、お任せしています。理工系の大学ということもあり、先生方だけでTeamsの勉強会をして工夫されているようです。

明治大学 中村氏：使っているLMSはOh-o! Meijiと言い、芝浦工大さんと同じくin Campusをカスタマイズしたものです。加えて、Commons-iというPower Pointと動画・音声を組み合わせてコンテンツを作り動画配信する韓国Xinics社のシステムを使っています。以前から司書資格取得コース等で使用していたe-meijiというLMSも併用しています。Zoomは、ライブ配信のほか授業を録画してオンデマンド授業の教材を作るのにも使っており、作った動画はCommons-iを通して配信します。ほとんどがコロナ禍の前から使っていたシステムでMicrosoft Azure（クラウド）上で稼働していましたが、2020年度の対面授業ができないピークの時、数万人がアクセスしても安定稼働するようCommons-iのプラットフォームをCDN（Content Delivery Network）に切り替えました。天吊りカメラは他の2校と同様です。

支援体制は各キャンパスに業務委託で運用しているサポートデスクがあり、電話、メール、あるいは直接教室へ行って「代行はしないがサポートはする」という方針でサポートしています。

清泉 与田：2020年春の混乱期に、費用をかけてCDNに切り替える判断は大変だったのでは。

明治 中村：このままではサーバーがダウンして授業に支障が出るのは目に見えていたので、トップダウンで決定、移行を行いました。ランニングコストは増えましたね。

■セッション2 2021年度におけるオンデマンド授業実施状況について

セッション2



2021年度における オンデマンド授業実施状況について

共立女子大学	芝浦工業大学	明治大学
<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則対面授業 ・ 今年ODは約150授業 ・ ODは選定・承認制 ・ 外部の企業に依頼し、ODで提供している授業もある 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則対面授業 ・ 昨年ODは約20%（対面授業等との組合せを含む） ・ 今年は数%（同上） ・ ODのみは学部長の許可制 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則対面授業 ・ 2021年春ODは26%（対面授業等との組合せを含む） ・ 資格取得コースやICT基礎コースのOD割合は高い

オンデマンド授業（OD）の活用状況

清泉 与田：オンデマンド授業実施状況について教えてください。

共立 湯浅：現在は対面授業を基本とし、オンデマンド授業は選定・承認制になっています。今年度は約150授業がオンデマンドで、例えばデータサイエンス系の授業は外部の企業に講師を依頼し、オンデマンドで授業を行っています。

芝浦 星野：本学も2021年度は原則対面に舵を切りました。本学では授業の登録の際、対面、ライブ、オンデマンド、それ以外という形態も申請します。複数選択も可能です。昨年度オンデマンドは約20%でしたが、オンデマンドのみの授業はそのうちの11%で、ほとんどは反転授業等に使われています。今年度も原則対面授業で、教育効果の高い科目のみ学部長の許可を得て対面授業なしでオンライン、オンデマンドとしており、2%程度に減りました。

明治 中村：2021年度春学期で、学部のオンデマンド授業の割合は26%でした。ただ対面との組み合わせも多いです。ちなみに対面授業は80%でした。ICTの基礎講座、学部の授業ではない司書や学芸員の資格を取るコース等ではオンデマンドの率が高くなっています。

清泉 与田：授業以外での活用はいかがでしょうか。本学では、新入生向けのガイダンスの大部分がオンデマンドになりました。大学システムの使い方の解説等がオンデマンドで提供され、かなり省力化されました。

共立 湯浅：本学でも、新入生向けに履修方法等のコンテンツをオンデマンドで用意しています。教職員向けの研修はほとんどがオンデマンドになりました。

芝浦 星野：反転授業の教材としては多く使われていますが、新入生向けには、説明用の動画があるものの教室に集合して見せていることもありますね。

明治 中村：他校と同様、新入生向けガイダンスはオンデマンドコンテンツとして提供し、翌年度も部分的に改訂して使っています。オンデマンドだとそのまま小テストやアンケートをできるのが便利で、学内システムのガイダンスでは、小テストで満点を取らないと合格にならないといった運用をしています。

■セッション3 実施教員へのお願い事項

セッション3

CS::

実施教員へのお願い事項



All Rights Reserved, Copyright © Campus System Research Group

清泉 与田：教員へのお願い事項を教えてください。

共立 湯浅：オンデマンド授業とeラーニングの違いは、毎週決まった課題があることだと思います。そのため毎週、①学修内容の指示、②学修状況の把握、③フィードバックをするよう依頼しています。教室ではカードで出欠を把握できますが、オンデマンドでは把握できないため、今年度までは必ず入力を依頼していました。

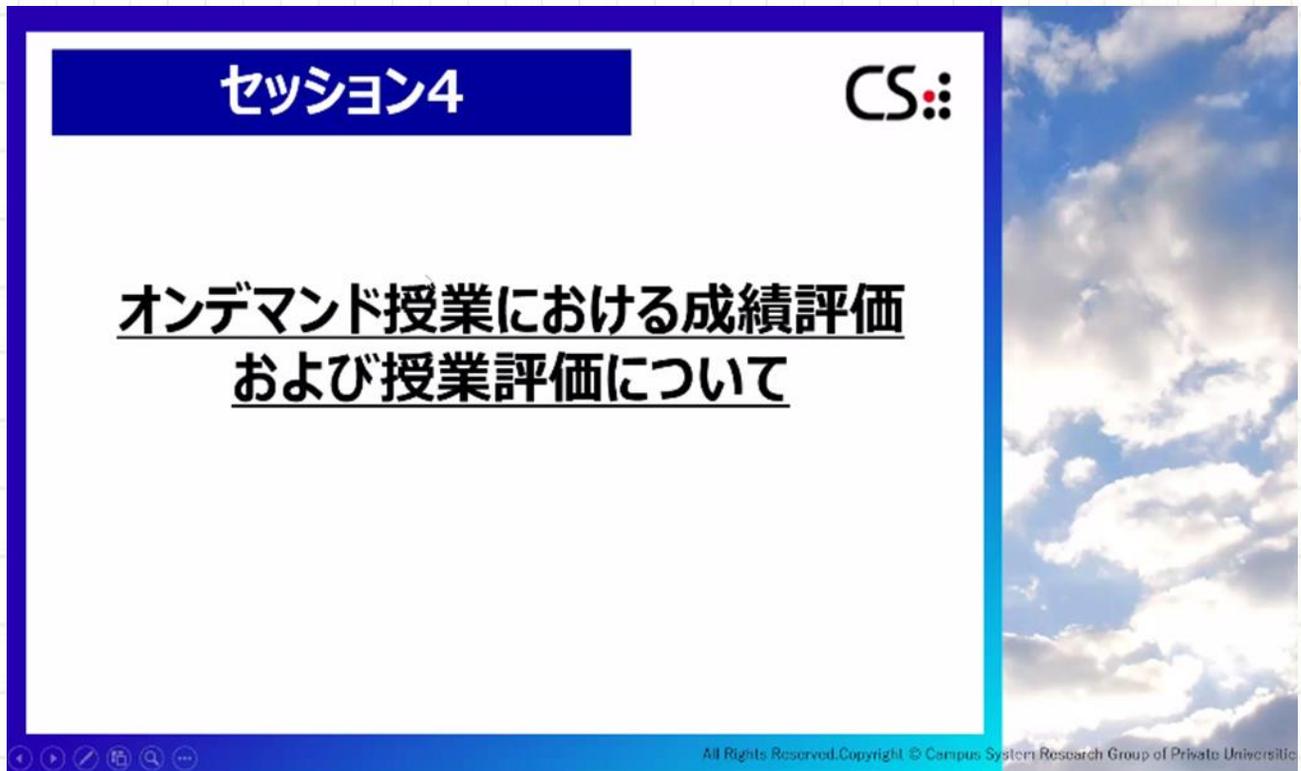
芝浦 星野：ガイドラインを作り、例えばLMSのテスト機能を出欠確認として使うこと、オンライン授業で顔出しは強制しないこと等を推奨しています。ガイドラインはZoomの機能追加等に合わせて適時改訂しています。

清泉 与田：LMSのテスト機能以外で出席の確認はできますか。

芝浦 星野：授業中にいきなり「○番の人」と指名して答えられないと欠席扱いになりますね。またZoomのログも確認しています。ただ数カ月前のログの確認が必要なこともあり、バンダーに依頼して少し苦労しました。

明治 中村：本学でもリアルタイムのライブ配信も含め、ガイドラインを作っています。対面と同様に出席を取ること、学生アンケートの結果を活用して教材を見直し、数年に1回は全面改訂すること等を定めています。出席の取り方は芝浦工大さん同様、課題、アンケート等で確認してもらっています。提出したはずなのに出不出、という問い合わせもありますが、ログを見るとほとんどは学生の操作ミスですね。

■セッション4 オンデマンド授業における成績評価および授業評価について



The slide features a blue header with the text 'セッション4' (Session 4) on the left and the 'CS' logo on the right. The main title is 'オンデマンド授業における成績評価および授業評価について' (On-demand learning performance evaluation and teaching evaluation). The background is a blue sky with white clouds. At the bottom, there is a navigation bar with icons and the text 'All Rights Reserved. Copyright © Campus System Research Group of Private Universities'.

清泉 与田：成績評価や授業評価について教えてください。

共立 湯浅：全学・個人の環境を問わずネットワークトラブル等が発生することもあるため、教員に対し多面的に評価するよう依頼しています。本学は教材を改訂することについてはあまり重きを置いておらず、その分フィードバックに労力を使ってほしいという方針です。管理面では、出席記録が残る対面授業に比べ、オンデマンドは毎週予定通り授業がされているかの把握が難しいと感じます。

清泉 与田：授業の運営状況は、対面授業よりも把握しやすいのではないですか。

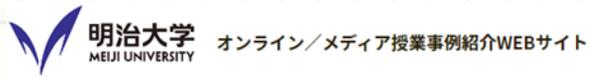
共立 湯浅：本学のシステムの場合一つひとつ確認しないと分からないですし、Google Driveへのアクセスも把握しにくいので、ここは今後の課題です。

芝浦 星野：本学でも、オンラインのテストで不具合が発生した際の問題の切り分けは大変ですね。授業の進み具合はある程度把握できますが、Microsoft Streamでは動画を最後まで見たかどうかまでは分からないのが課題です。明治大学さんのように専用のシステムを入れれば解決するのでしょうか、なかなかクラウドから戻れないですね。ScombZもクラウド化してログが見にくくなってしまいました。

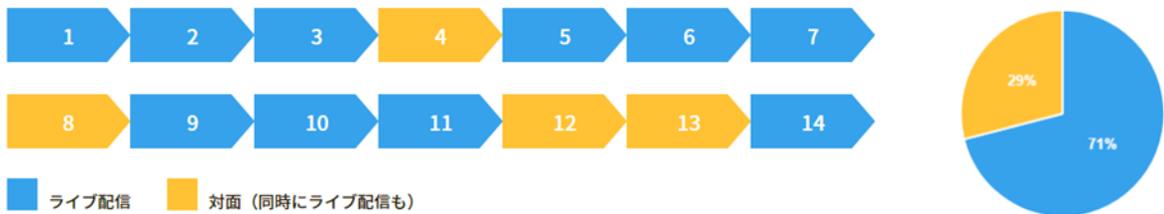
清泉 与田：本学では、大学のリソースに限りがあるためオンデマンドの動画コンテンツをYouTubeにアップロードしていますが「LMSに載せたURLを誰がクリックしたか」は分かっても、最後まで見たのか、1倍速で見たのかは分からないのが悩みです。

明治 中村：明治大学のオンライン授業を紹介するWEBサイトを紹介します。先生方が苦勞して授業を用意されているのが伝わるかと思います。評価方法についても記載があります。

[明治大学オンライン／メディア授業事例紹介 WEBサイト \(act-meijiro.jp\)](http://act-meijiro.jp)



授業概要・オンラインの活用状況



講義の特色

■ オンライン (ライブ配信) を中心とし、対面形式も併用する語学授業 (専攻の基礎専門科目)。

明治大学オンライン／メディア授業事例紹介WEBサイトより授業の例

共立 湯浅：本学では、オンデマンド授業は減るわけではなく整理されていくと捉えています。対面よりもオンデマンドで自分のペースで繰り返し学んだほうが理解がより深まる講義形式の授業もあるでしょうし、対面授業の補完や教材としての動画利用は増えていくのではないのでしょうか。

■まとめ

結びに分科会幹事の共立女子大学田中氏より「3大学それぞれ特徴がありますが、共通の悩みや解決策も感じました。対面授業が増えても、オンデマンドはその補完として、今後も利用されていくでしょう。ぜひこれを機会に大学の授業はどうあるべきか考えるきっかけにいただけたらと思います」と述べ閉会となりました。

4. 参加校 [17校27名] ・参加企業[8社29名] ・参加総数[56名]

青山学院大学[1] 関西国際大学[3] 関西大学[1] 関東学院大学[2] 共立女子大学[4] 芝浦工業大学[1] 城西大学[1] 清泉女子大学[1] 摂南大学[1]	中央大学[1] 中部大学[2] 津田塾大学[1] 東京都市大学[1] 東洋大学[1] 日本女子大学[1] 明治大学[4] 立教大学[1]	エイチ・シー・ネットワークス株式会社[3] シスシステムズ合同会社[1] ダイロン株式会社[1] 東通産業株式会社[1] Manabie Japan合同会社[1] 有限会社ハーティサービス[1] 富士通株式会社[1] 富士通Japan株式会社[20]
---	---	--

5. 所感（教育システム分科会運営委員会）

オンラインでの分科会終了後に、運営委員のみでこちらでもオンラインで反省会を行うのですが、この反省会の中での会話・情報共有が実は面白いのでは無いか、という話が出たことによって今回のような形式での開催となりました。ある程度の事前調整はありつつも、あまりかしこまった形にならず、かつての対面開催時にはそこかしこで見られていたような自由で緩い情報交換・ディスカッションの雰囲気を感じていただけたのではないのでしょうか。オンラインになって参加することへのハードルは下がりましたが、ディスカッションはなかなか難しいと感じられる方も多いかと思えます。間もなく対面開催も可能になってくると思いますので、その際には是非ご参加いただき、CS研での自由で緩いコミュニケーションを楽しんでいただければ幸いです。

【分科会の様子】



【事務局より】

次頁以降に開催後アンケート結果（抜粋版）を記載しています。

開催後のアンケート結果詳細版や当日プレゼン資料ご覧になりたい方は、[「CS研・IS研情報交換サイト」](#)に掲載しておりますのでそちらをご覧ください。

「CS研・IS研情報交換サイト」について

○CS研・IS研の会員向けに情報・資料をご提供し、会員の皆様で情報交換をする会員専用のサイトです。

（新規入会ご希望の方は、右下の事務局まで、お手数ではありますがご連絡ください。）

URL : <https://csis.ufinity.jp/shared>

○情報交換サイトをご覧になるにはIDとパスワードが必要となります。お持ちでない場合は以下のサイトにてお申込みください。

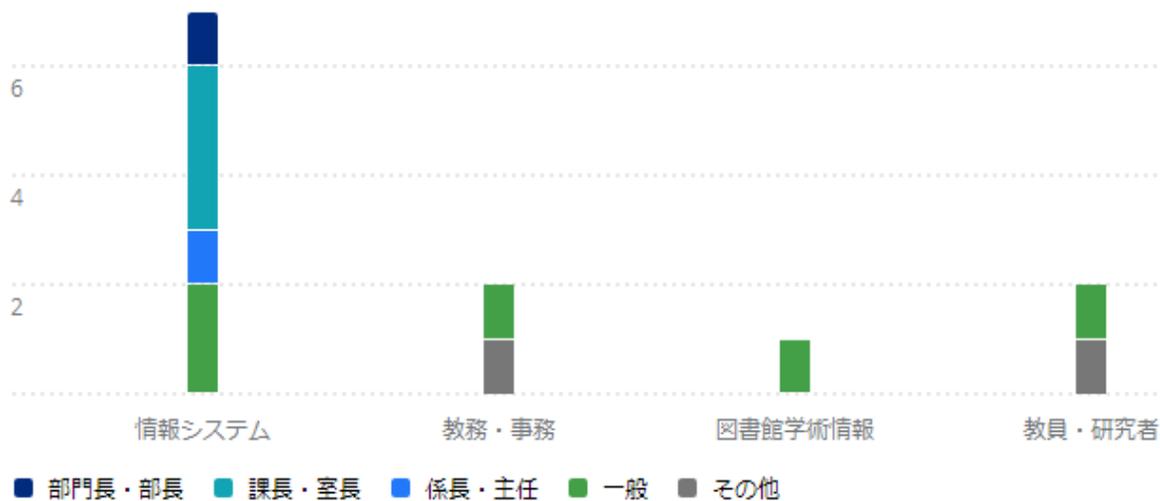
お申込みサイト : <https://seminar.jp.fujitsu.com/public/seminar/view/46757>

【連絡先】

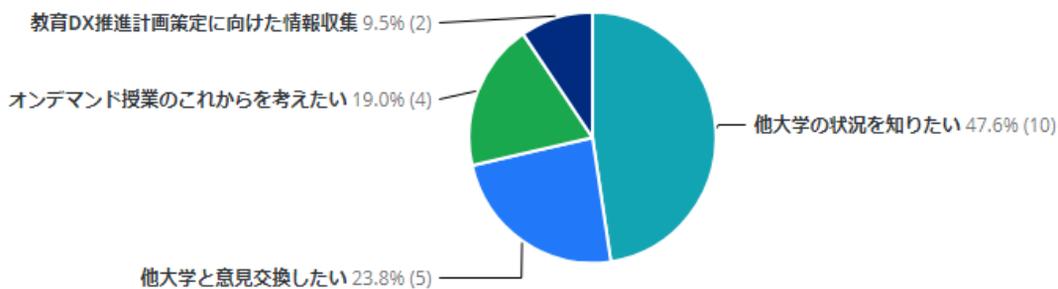
私立大学キャンパスシステム研究会 事務局
〒105-7123 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンター
富士通Japan株式会社 戦略企画統括部内
E-mail : contact-csiken@cs.jp.fujitsu.com

開催後アンケート結果 【回答数／対象者数：12／27（大学関係者のみ）】

■担当業務と役職について

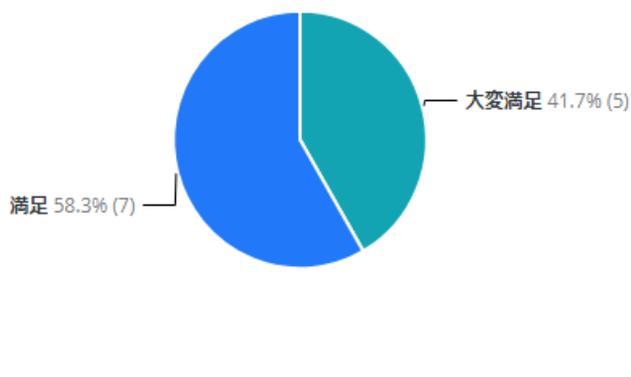


■参加した目的について



■ 他大学の状況を知りたい ■ 他大学と意見交換したい ■ オンデマンド授業のこれからを考えたい ■ 教育DX推進計画策定に向けた情報収集

■本日の分科会の全体満足度について

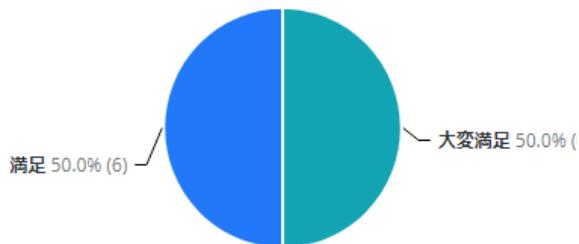


■ 大変満足 ■ 満足

■全体満足度の評価理由について（抜粋）

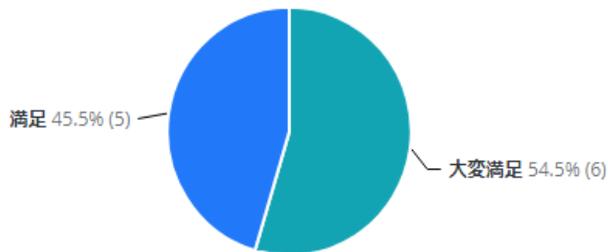
- 実際の大学の実情を知ることができました。情報関係の部署ではないので、専門的な言葉が分からないところもありましたが、オンデマンド授業を推奨している大学もあれば、かなり少なくなっている大学さんもあり、岐路に立たされている大学もあると思いました。
- 他大学の状況や教員対応、学生対応に苦慮しながら工夫されていることが伺えてよかったです。
- 詳細をお話しくださったので大変参考になりました。
- 他大学の取り組み状況や苦労話等に関して率直なお話を伺うことができ、大変参考になりました。
- 実際の使われ方も聞いて、満足している
- オンデマンド授業に関する他大学の状況や仕組みを知ることができたから。

■満足度－開催テーマについて



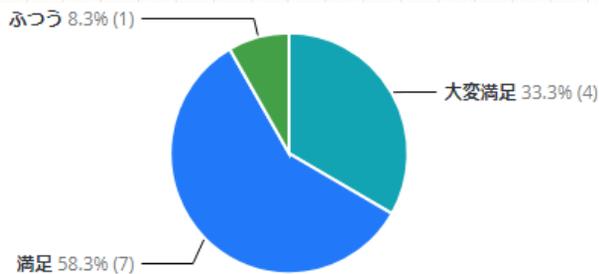
■ 大変満足 ■ 満足

■満足度－パネルディスカッションについて



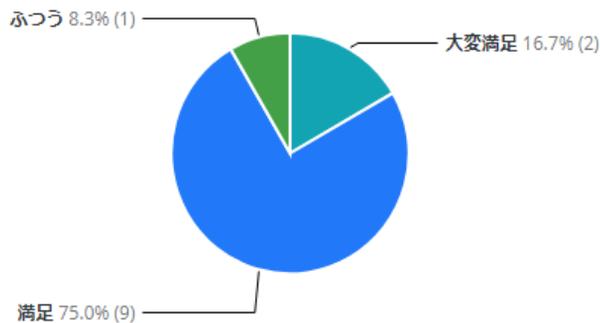
■ 大変満足 ■ 満足

■満足度－意見交換について



■ 大変満足 ■ 満足 ■ ふつう

■満足度－時間配分について



■ 大変満足 ■ 満足 ■ ふつう

■CS研では、本年度も「キャンパス×DX」というテーマで活動を進めていく予定です。今後実施してほしいイベント、テーマ等について（抜粋）

- 人材・予算とDXというような内容で、ただただDXがこういうもの、取り組み事例がこういうものというより、導入大学の規模感や、そこまでやり遂げるのにどれくらいの期間、ヒト、モノ、カネが動き、専用の部門を作ったかなど、結果に至るまでの過程を確認できるような機会があると、現場でどのように動かなければいけないかわかるのでありがたいです。
- 教員・学生・職員それぞれの立場におけるDXの推進について
- 教職員間のデータ共有方法、教員学生間のデータ共有方法など